

巻頭インタビュー

元氣

の源

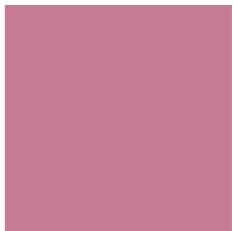
を聞いてみました

ライフネット生命 会長

出口治明

さん





僕が仕事をするときには大事にしているのは、「正直」であることです。ある調査で『指導者の資質で一番大事なことは？』という問いに、欧米では「正直」が1位であるのに対して、日本では「決断力」が1位。日本人は、仕事さえきちんできていたら、少しくらい嘘をついてもいいと思っ

ているのが何となく透けて見えますね。欧米では情報開示が進んでいて、首尾一貫していないと徹底的に指摘されます。なぜ「正直」が大事かというと、嘘をつくとしんどいから。若いころに、銀座の飲み屋でつい歳を若く言ってしまった、干支を聞かれて口ごもった経験があるんですよ（笑）。常に自分の本心を言っていれば、たとえ意見が変わることがあっても、なぜ変わったのかその理由を明確に説明できるので楽ですね。

そもそも1年は8760時間で、そのうち労働時間は約2000時

間です。プライベートが7で仕事は3だとすると、仕事よりも大事にしたいのはパートナーや友だち。食べて、寝て、遊んで、子育てすることのほうが大切ではないでしょうか。

そして、逆に仕事は3だと割り切れば、限られた時間で思い切った仕事に打ち込めます。ゴマをすらなくてもいいし、自分が正しいと思うことを主張すればいい。まずは「正直」であることが大前提。そして、同じ仕事をするなら、「おもしろい」ほうがいいと考えています。

僕はそれほど仕事を重視していませんので、「これをした」という強い思いがあつて、何かを始めたことはありません。前職の日本生命に入社したのも、たまたまなんです。僕は法学部だったので司法試験を受けたのですが落ちてしまったので、滑り止めに受けて内定をもらっていた日本生命に入ったんですね。

60歳で保険会社を立ち上げたのも偶然で、起業したいと思っていただけではないんです。日本生命の子会社で働いていたときに友人から、「知人が生命保険の話を知りたいと言っているので会ってやってほしい」と頼まれて、あすかアセットマネジメントリミテッドの谷家衛さ

ダメでもともとなら、流れに乗るほうがおもしろい。人生ってそんなものです

んを紹介されました。実際に会って、生命保険について20分くらいお話ししたら、「出口さんは保険のことがよく分かっている。一緒に保険会社をつくりませんか」と言われて、「はい」と即答してしまった（笑）。そのときの流れに乗っただけです。新しいことを始めるときに、特に何かにこだわるといふことはないですね。「はい」と返事をした以上は、それを翻せば「正直」という信念に反するので、必死にがんばるしかありません。それ以来、人生で一番長時間働いています。ダメでもともとなら、とりあえず川の流れるに乗ってみるほうが、おもしろい。人生って、そんなものだと思います。

そういう感じで生きてきたので、失敗は山ほどあります。日本生命時代にロンドン駐在が決まったときに、膨大な本をすべて処分しました。後に世界史の本を書いた際に、いざ参考文献を載せようとしても手元にない。昔読んだ本のタイトルを図書館や書店で調べる羽目になりました。もう一つ忘れられないのは、ロンドンで現地法人の社長をしていたときのこと。南アフリカに100億円貸し付けるといふ案件をまとめました。当時の南アフリカ

はまだ国際社会に復帰する前でしたから、担保を十分に確保して、中央銀行の総裁や大蔵大臣にも直接面会して、しっかり地固めをしたのに、東京本社の返事はNO。日本の銀行が取り引きしていない国は「怖い」というのが理由でしたが、悔しかったですね。

そのときは仲のいい友人とご飯を食べてワインをがんがんで、グチを目一杯言つて（笑）。ぐっすり寝たら、かなりすっきりしました。

僕の元気の源は「食べて寝ること」。ほかに元気になる方法なんてありません。そういうとき一緒に飲める友人がいるの

出口 治明 さん

ライフネット生命保険 会長

1948年三重県生まれ。京都大学を卒業後、1972年に日本生命保険相互会社に入社。企画部や財務企画部にて経営企画を担当するとともに、生命保険協会の初代財務企画専門委員長として、金融制度改革・保険業法の改正に従事。ロンドン現地法人社長、国際業務部長などを経て、同社を退職。2006年に生命保険準備会社を設立し、代表取締役社長に就任。2008年の生命保険業免許取得に伴い、ライフネット生命保険株式会社を開業。2013年6月より現職。主な著書に、『生命保険入門 新版』（岩波書店）、『生命保険とのつき合い方』（岩波新書）、『直球勝負の会社』（ダイヤモンド社）、『働く君に伝えたい『お金』の教養』（ポプラ社）、『全世界史講義』（新潮社）ほか多数。

INFORMATION

『日本の未来を考えよう』

出口 治明 著（クロスメディア・パブリッシング）

学生や主婦にも理解できるように、数字を読み解くことで「日本の現状」を分かりやすく解説しています。例えば第6章「教育編」の『中学校教師の勤務時間』によれば、日本の先生の勤務時間は34カ国中で最も長く、週換算で53.9時間。そのうち授業以外のことに7割の時間を費やしているそうです。